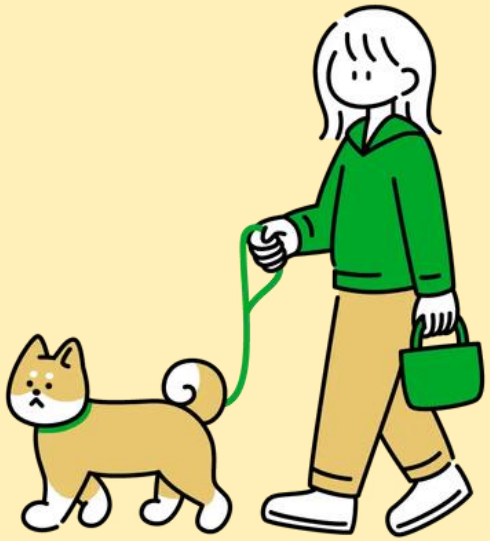


令和８年度
市民のしあわせ実感モニタリング
まとめ



丹波市ふるさと創造部総合政策課

実施の目的

丹波市では、第３次丹波市総合計画に掲げる将来像「まなび　ときめく　丹（まごころ）の里　～しあわせ輝く　みんなの未来へ～」の実現に向け、「市民一人ひとりがしあわせを実感できるまちづくり」を進めています。

市民のしあわせ実感に基づく施策や取組を進めるためには、行政が把握できる統計データや事業実績だけでなく、市民の皆さんが日々の暮らしの中でどのように感じているのかを継続的に把握することが重要です。

そのため、ワークショップ形式で市民の皆さんからの声を直接聞く『市民のしあわせ実感モニタリング』を実施することで、数値だけでは捉えきれない背景や要因等を深掘りし、その結果を施策や事業の検討につなげることとしています。

① 市民のしあわせ実感調査（アンケート）

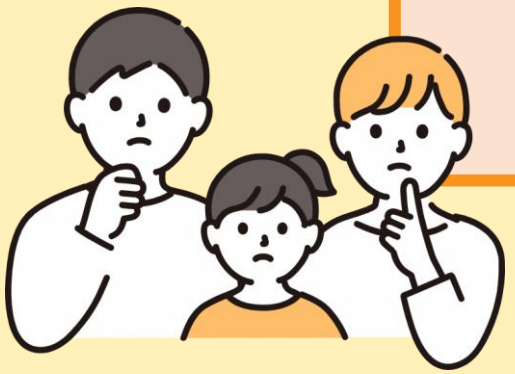
幅広い市民を対象に、しあわせ実感の傾向や特徴を把握

「全体を見る」

② インターネット上での意見投稿

日々の暮らしの困りごと、希望や提案などを把握

「具体的な声を集める」



③ 市民のしあわせ実感モニタリング

①・②で把握した傾向や特徴、市民の声を踏まえ、対話により

「なぜそう感じるのか」、「何がしあわせにつながるのか」を深掘り

④施策や事業の検討へ

実施の概要

日　　時	令和8年8月6日（木）午後７時～午後９時まで
場　　所	氷上住民センター大会議室
参　加　者　数	16人（うち、高校生４人） ※15歳以上の住民基本台帳から無作為抽出した1,500人のうち、参加を承諾された方及び高校生枠に応募された方
グ　ル　ー　プ　数	6グループ （市職員がファシリテーターとして、各グループに２名ずつ加わりました。）
タイムテーブル	自己紹介15分、グループでの意見交換60分、発表15分

参加者16人のうち30代以下が12人（75%）を占めており、若い世代のしあわせ実感について、様々な声を聞くことができました。

今回のテーマと話しあいの進め方

インターネット上に投稿いただいた意見の中から、多くいただいた意見に関連する次の２つのテーマを話しあいの入口に設定し、各グループで話しあっていただきました。

テーマA

若者に選ばれる仕事と暮らしがあるまち

関連する投稿意見：24件
グループ１～３で意見交換

テーマB

便利で快適なまち

関連する投稿意見：21件
グループ４～６で意見交換

話しあう際の２つの視点

1. 投稿された意見の背景に、どんな暮らしの問題や課題がある？
   自分の生活に置きかえると、どう感じる？

2. テーマにあるまちの姿を実現するために、何が必要？
   今の丹波市に、何が足りない？



単に要望やアイデアを挙げてもらうだけでなく、参加者自身の経験や価値観を重ねて意見交換していただくことで、「市民のしあわせ実感調査（アンケート）結果」や「インターネット上での意見投稿」だけでは分かりにくい「なぜそう感じるのか」、「何がしあわせ実感につながるのか」を深堀りしていただきました。

ワークショップで交わされた市民の声

テーマA　若者に選ばれる仕事と暮らしがあるまち

※下記は、ワークショップで交わされた声を要約・抜粋したものです。

1 仕事と働き方

- 仕事を選ぶ際には、給与や雇用の安定性だけでなく、働きがいや職場環境、休暇の取りやすさ、自分の時間、スキルアップなども重要である。
- 若者が挑戦する場を作るため、起業や資格取得などを支援する必要がある。

2 暮らしと楽しみ

- 安定した仕事や収入だけでなく、趣味や旅行など、自分の時間が楽しめることも大切である。
- 若者に選ばれるまちに向けては、「楽しく暮らせること」が重要である。
- 自然の豊かさや土地の広さなど、丹波市ならではの暮らしやすさを大切にする。

3 移動と交通

- 生活を始める段階で必要になる車の購入費用が若者にとって負担である。
- 公共交通の利便性を高める。
- 車で自由に移動でき、駐車場が広く無料であることに丹波市の暮らしやすさを感じる。

4 本市の魅力と情報発信

- 丹波市の自然や文化、暮らしやすさなどの魅力をもっと発信する。
- 若者が魅力発信に関わることが大切である。
- 専門人材を活用した情報発信も考えられる。

5 地域との関係や人とのつながり

- 家族や地域の人から支えてもらえることは、丹波市の良さである。
- 地域のつながりや人と出会える環境は、暮らしの安心につながる。
- 男女で役割を固定する考え方や結婚などの私生活への干渉に負担に感じることがある。

ワークショップで交わされた市民の声

テーマB　便利で快適なまち

※下記は、ワークショップで交わされた声を要約・抜粋したものです。

1 移動と交通

- 通学や部活動など、必要な時間帯に利用できる公共交通が必要である。
- デマンド交通を利用しやすい環境を整え、学生を含めて利用方法を分かりやすく周知するなど、若年層の移動手段として定着させることが重要である。

2 暮らしの利便性と生活サービス

- ネット通販で困らない人もいる一方で、実物を見て購入したい人には実店舗が必要である。
- 今ある馴染みの店を残すため、高校生のアルバイト解禁などによる働き手の確保が必要である。
- 妊娠期から子育て期を通じて、困ったときに相談できる環境が必要である。

3 若者の居場所と余暇

- 中高生や若者が放課後や休日に過ごせる場所が必要である。
- 公共施設など、今ある施設を活用して居場所を作る。
- 高校に食堂や電子レンジ、自動販売機などがあると便利である。

4 安全と安心

- 自転車や自動車、歩行者が安全に通行できる道路環境が必要である。
- 暗い場所や危険な場所について、市民から市役所へ情報を伝える仕組みが必要である。
- 夜間診療など、必要な時に利用できる医療機関があると安心できる。

5 地域の魅力と人とのつながり

- 自然が暮らしの魅力や心のよりどころになっている。
- 挨拶を交わす文化や近所同士で助け合える関係は、丹波市の良さである。
- 人とのつながりを保ちながら、プライバシーや価値観にも配慮する。

しあわせ実感を高めるために必要な視点

テーマA　若者に選ばれる仕事と暮らしがあるまち

若者に選ばれるまちになるためには、働く場所を確保するだけでなく、「働く・暮らす・楽しむ」を一体的に捉え、若者が本市で将来の暮らしを描き、暮らし続けたいと思える環境を整えることの重要性が見えてきました。

1 仕事や働き方の選択肢を増やす

給与や雇用の安定性だけでなく、働きがい、休暇、スキルアップ、自分の時間なども重視されていることから、地元企業の働きやすさの発信、柔軟な働き方、起業や資格取得支援など、若者が仕事や働き方を選べる環境を考える。

2 安心して暮らせる生活基盤を整える

車の取得や移動、買い物、子育てなど、仕事以外の生活面も定住の判断に関わっていることから、交通や子育て支援など、若者が本市で生活を始め、暮らし続ける際の負担や不便を減らす取組を考える。

3 本市で暮らす楽しさや魅力を高め、伝える

若者が集まれる場所や飲食・余暇の充実に加え、自然や文化、人とのつながりなど、本市にすでにある魅力を活かし、若い世代に届く方法で発信する取組を考える。

しあわせ実感を高めるために必要な視点

テーマB　便利で快適なまち

便利で快適な暮らしについては、年代や居住地域、生活スタイルなどによって必要とするものが異なるため、それぞれの暮らしに合わせて多様なサービスが選択でき、世代を問わず誰もが安心して暮らせることの重要性が見えてきました。

1 移動や生活サービスの選択肢を確保する

年代などによって、電車やバス、デマンド交通、自家用車、自転車など移動に対するニーズが異なるほか、買い物についても実店舗の設置や移動販売、ネット通販など、求める内容が異なることから、それぞれの生活に合った手段を選べる環境を考える。

2 日常生活の身近な不便や不安を減らす

若者の居場所や街灯、自転車の通行環境、空き家、防災、医療など、日々の生活に直接関わる身近な課題が多く挙げられたことから、新たな施設整備だけでなく、日常生活の中にある不便や不安を改善する取組を考える。

3 利用する人に合わせたサービスの提供を考える

行政手続のスマートフォン対応を求める声がある一方で、高齢者などの対面での支援を必要とする人もいるなど、便利さの感じ方はそれぞれであり、デジタルと対面の両方を含め、利用する人に応じたサービスのあり方を考える。

モニタリングの様子



今回のモニタリングで得られた気づきは、今後の施策や取組を検討する際の基礎資料として活用します。

ご参加いただいた皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。